

1 耐候性鋼橋梁の損傷分析とさび外観評価システムの提案

当協会では、耐候性鋼橋梁の使用開始初期から実橋調査を継続して行ってきた。これらの橋梁の中には、保護性さびが生成されず損傷を起こしている例が少なからず報告されている。そこで、調査データを分析することにより損傷の状況とその支配的な要因を明らかにする。また、実際の実橋調査の際に、さび外観の評価が難しいとの意見を受けて、さびを模して作成したサンプルと誰でも閲覧可能な画像のデータベースによるさび外観評価システムを試用開始したので紹介する。

2 第二音戸大橋 空中ジョイントによる大ブロック一括架設

中路アーチである第二音戸大橋の中央径間（鋼中路式ニールセンローゼ橋）は、最初に陸上部を地上に設置したベント設備上に架設し、その後海峡部をFCによる大ブロック一括架設にて施工した。

一括架設は、大ブロックをFCにて吊り上げた状態で直接陸上部アーチ仕口と空中ジョイント（ボルト接合+ジャッキ）する工法を採用した。この海峡部大ブロックの、地組後の海上輸送および一括架設時に行った工夫について述べる。

3 道路ネットワーク維持管理の必要性と鋼橋の更新時期について
—Fix It First(まず修繕を)—

橋梁の老朽化が問題視される中、近年における通行止め橋梁の増大とその問題点を探る。

補修事例2件、「①『原田橋』：昨年6月に応急復旧した事例、②『弁天橋』11月に落橋しかけた吊橋の撤去工事。」を取り上げ、調査点検の盲点、マニュアルの危険性を、補修技術、撤去技術、モニタリング技術、LCCの視点から報告する。

最後に国土強靱化計画で補修の必要性が高まる中、FIT IT FIRST(まず補修)を説明し、早期に架け替えをすることは長期に見た場合、安心・安全、コストダウンにつながることをPRLし、新たな更新橋梁の拡大を目指す内容の紹介を行う。

特別講演会

1 復興道路（三陸沿岸道路）等の整備について

宮田 忠明

東北地方整備局
道路部
道路調査官

一 所 属 一

東北地方整備局 道路部 道路調査官

講演概要

東日本大震災の被災地の復興リーディングプロジェクトとして三陸沿岸道路などが復興道路等としてH23年11月の補正予算により新規事業着手した。これら復興道路等の新規事業区間延長は極めて長く、また早急な整備が求められている。一方、大震災時には開通済みの三陸沿岸道路は「命の道」として大きな役割を果たしたところである。そのため、三陸沿岸道路等の整備にあたっては、津波対策も考慮し、また早期整備に向け事業促進PPP等の導入を図り整備を鋭意進めている。

一 最近の主な略歴 一

平成15年 津軽ダム工事事務所長
平成18年 酒田河川国道事務所長
平成19年 企画部 技術調整管理官
平成24年 道路部 道路調査官

FAX番号:022-262-4855

平成25年度

11月8日(金)

橋梁技術発表会

[東北地区]

参加申込書

所 属

団体名

所属

氏 名

役職

氏名

住 所

〒

電話番号

FAX番号

E-mail

前回参加の有無 有 ・ 無